

議題2. 医療・介護連携ルール活用状況等の調査結果について

1. 「医療・介護連携ルール」活用状況調査（結果）
2. 「とびうめ@きたきゅう」活用状況調査（結果）

1. 「医療・介護連携ルール」活用状況調査（対象：ケアマネ事業所）

1. 調査目的

- 「とびうめ@きたきゅう」の令和元年11月からの八幡地区でのモデル実施、令和2年6月からの全市展開、そして「医療・介護連携ルール」の運用開始から一定期間が経過したことを受け、「医療・介護連携ルール」の運用状況等を把握するための調査を、ケアマネ事業所を対象に、昨年度、初めて実施。
- 今後も、運用状況を継続的に把握していくため、昨年度に引き続き、調査を実施した。

2. 調査概要

- **病院からケアマネ事業所へ、利用者が入院された際に連絡が来ているか**について（「医療・介護連携ルール」が運用されているか）、調査票を市内の全ケアマネ事業所に送付し、回答状況を集計した。

3. 調査期間

- 令和3年11月29日（月）から令和3年12月24日（金） ※約1か月間

4. 回答率

- 55.2%（216/391事業所）※小規模多機能事業所を含む
《昨年度 44.6%（175/392事業所）》

5. 調査期間中の入院件数

- **598件**（救急入院・当日入院・その他入院）
《昨年度 459件》

○結果要点（その1）

【病院→ケアマネ事業所】

- ①病院から入院3日以内に連絡があった **304/598件（50.8%）** 《昨年度 50.8%》
- ②病院から入院4日以降に連絡があった 31/598件（5.2%） 《昨年度 7.0%》
- ③病院から連絡がなかった 263/598件（44.0%） 《昨年度 42.3%》
- ※②+③ = **294/598件（49.2%）** 《昨年度 49.2%》

➤ 「③病院から連絡がなかった」についても、病院から家族を経由してケアマネ事業所に連絡してもらっているなど、「ケアマネ事業所に全く連絡がない」ということではない。

*参考：救急入院・当日入院のうち、とびうめ@きたきゅう登録者・非登録者を抽出

病院 → ケアマネ事業所 への連絡	救急入院			外来受診後の 当日入院		
	3日以内	4日以降	連絡なし	3日以内	4日以降	連絡なし
全体	48.6% (144/296件)	4.7% (14/296件)	46.6% (138/296件)	51.5% (88/171件)	6.4% (11/171件)	42.1% (72/171件)
うち、とびうめ登録者	56.7% (34/60件)	3.3% (2/60件)	40.0% (24/60件)	57.6% (19/33件)	0% (0/33件)	42.4% (14/33件)
うち、とびうめ非登録者	46.6% (110/236件)	5.1% (12/236件)	48.3% (114/236件)	50.0% (69/138件)	8.0% (11/138件)	42.0% (58/138件)

➤非登録者に比べ、とびうめ登録者の方が病院からケアマネ事業所に3日以内に連絡した比率が高い。

○結果要点（その2）

【ケアマネ事業所→病院】（病院から入院の連絡があったもの（前ページ①+②）について集計）

- ①ケアマネ事業所から3日以内に情報提供をした 264/335件（78.8%） 《昨年度 80.0%》
 - ②ケアマネ事業所から4日以降に情報提供をした 9/335件（2.7%） 《昨年度 3.0%》
 - ③ケアマネ事業所から情報提供していない 62/335件（18.5%） 《昨年度 17.0%》
- ※②+③= 71/335件（21.2%） 《昨年度 20.0%》

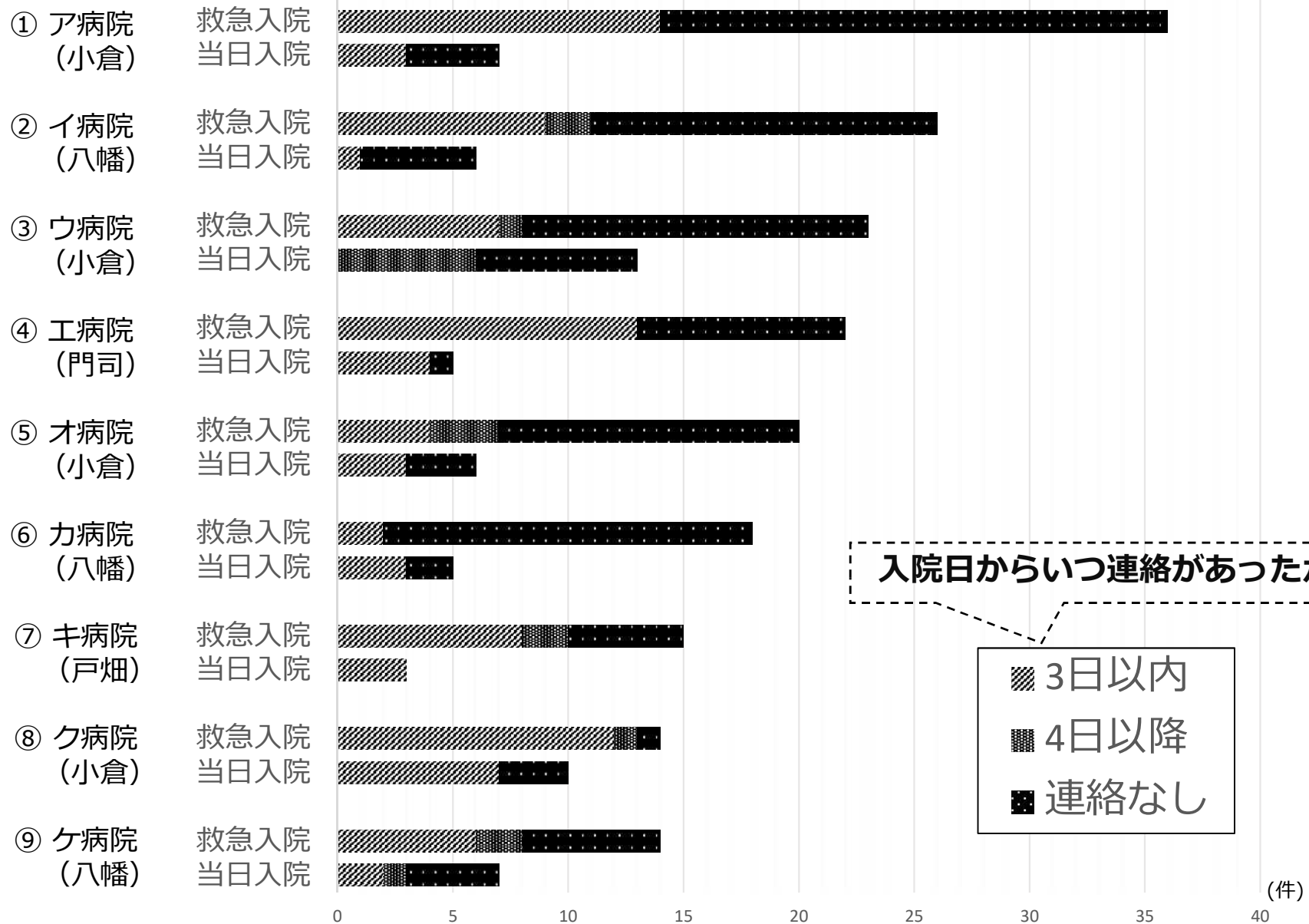
*参考：病院から連絡があった全入院のうち、ケアマネ事業所が情報提供を行っている入院別内訳。

病院から連絡があった全入院	ケアマネ事業所→病院への情報提供	全体	うち救急入院	うち当日入院	うちその他の入院
		情報提供を行った	81.5% (273/335件)	83.5% (132/158件)	76.8% (76/99件)
	入院を知ってから <u>3日以内</u>	<u>78.8%</u> (264/335件)	82.3% (130/158件)	<u>74.7%</u> (74/99件)	<u>76.9%</u> (60/78件)
	入院を知ってから 4日以降	2.7% (9/335件)	1.3% (2/158件)	2.0% (2/99件)	6.4% (5/78件)
	情報提供なし	18.5% (62/335件)	16.5% (26/158件)	23.2% (23/99件)	16.7% (13/78件)

➤ケアマネ事業所から病院へ3日以内に情報提供を行った比率は、救急入院が比較的高い。

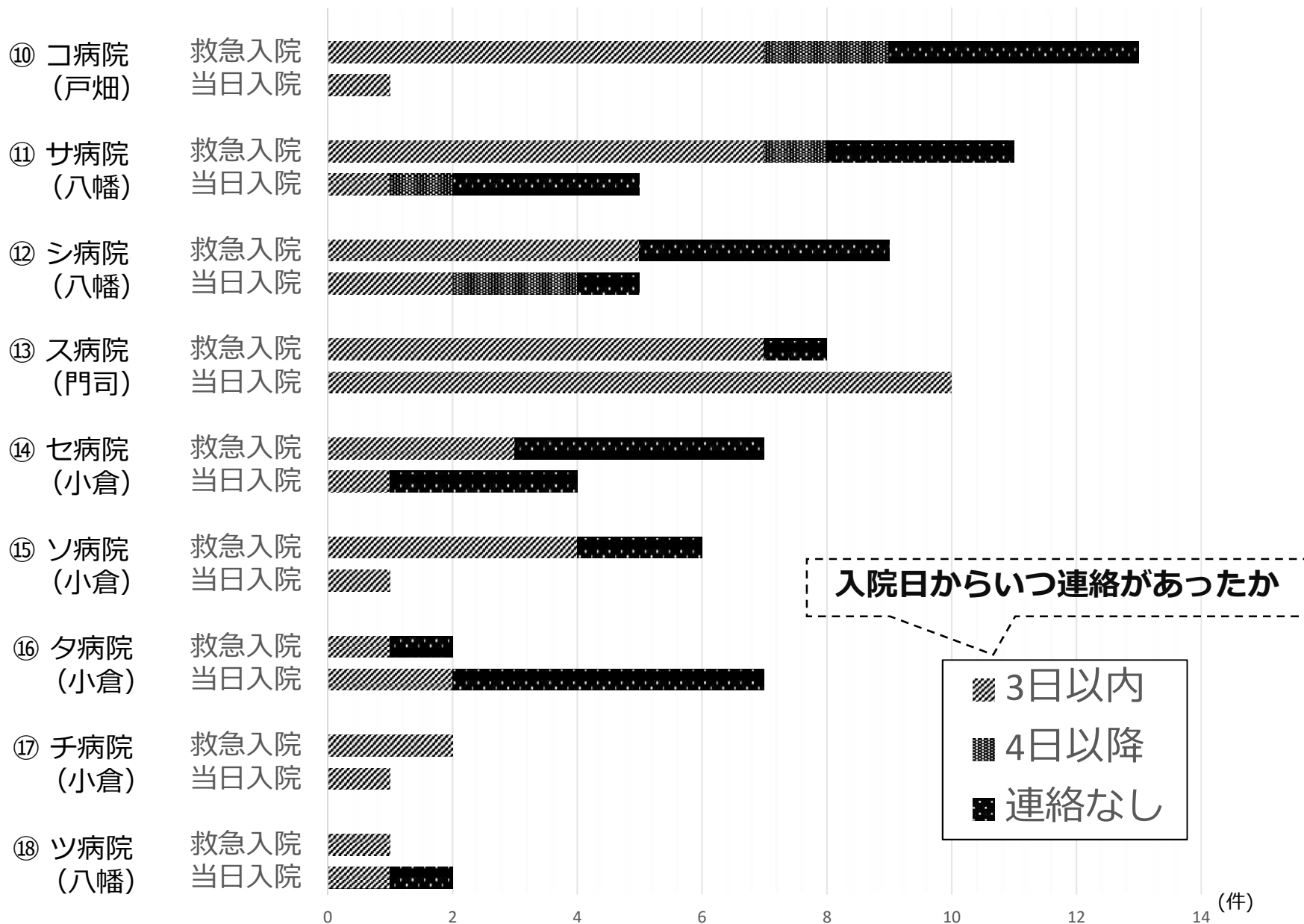
病院からケアマネ事業所への 「利用者が入院しました」の連絡

※R3.11.29~R3.12.24の救急入院、当日入院について、市内のケアマネ事業所に調査したものの



入院日からいつ連絡があったか

- 3日以内
- 4日以降
- 連絡なし



それぞれ、病院によっても取組状況はマチマチ。

※「連絡なし」についても、病院から家族等を経由してケアマネ事業所に連絡をしてもらっているなど、「ケアマネ事業所に全く連絡がない」とまではいえない。

ケアマネ事業所から見て「誰から利用者入院の連絡があったか」

病院	連絡をくれた人		連絡があった件数
	家族	その他	
○	○	○	1.7%(10/598件)
○	○		25.4%(152/598件)
○		○	8.0%(48/598件)
○			20.9%(125/598件)
	○	○	1.0%(6/598件)
	○		30.9%(185/598件)
		○	12.0%(72/598件)
56.0%(335/598件)	59.0%(353/598件)	22.7%(136/598件)	
← 57.7%(265/459件)	↑ 59.0% 49.7%(228/459件) 上昇	35.3%(162/459件)	← 昨年度 (参考)

- ・「病院からの連絡」は『やや低下』したものの、「家族からの連絡」は『上昇』。
- ・「病院→家族→ケアマネ事業所」への連絡ルートも有効ではあるものの、入院当初から医療・介護の専門職同士の連携を図ることが可能となる
「病院→ケアマネ事業所」の連絡体制をより徹底する必要がある。

○まとめ（ケアマネ事業所調査）

- 全般的に、前回調査結果との大きな差はみられなかった。
- 利用者の入院の5割について、入院して3日以内に病院からケアマネ事業所に連絡があった（その他についても、家族などを経由して連絡はあっている）。
一方、病院からケアマネ事業所に連絡のあったケースのうちの8割について、ケアマネ事業所から病院に利用者情報の提供をしていた。
- ケアマネ事業所に利用者の入院の連絡をくれた相手方で、最も多かったのは、
前回は病院（57.7%）であったが、今回は家族（59.0%）であった。
- 病院から家族などを経由して連絡する方法も有効的ではあるものの、
入院当初からの切れ目ない医療と介護の連携を促がしていくためにも、
病院からケアマネ事業所への連絡体制をより徹底していく必要がある。

参考：ケアマネ事業所を対象に実施した調査（病院からの連絡があった日 - 入院日）

利用者が入院した
ことの連絡の有無

56.0%
(335/598件)

44.0%
(263/598件)

（病院から連絡がなかった）
（病院以外から連絡があった）

病院から連絡のあった日数（全入院種別）

全入院種別	全体		とびうめ登録者	とびうめ非登録者
	病院から連絡があった	56.0%(335/598件)	59.2%(74/125件)	55.2%(261/473件)
入院日以前	入院日以前	3.5%(21/598件)	3.2%(4/125件)	3.6%(17/473件)
	入院3日以内	47.3%(283/598件)	53.6%(67/125件)	45.7%(216/473件)
	入院4日以降	5.2%(31/598件)	2.4%(3/125件)	5.9%(28/473件)
連絡なし	44.0%(263/598件)	40.8%(51/125件)	44.8%(212/473件)	

救急入院	全体		とびうめ登録者	とびうめ非登録者
	病院から連絡があった	53.4%(158/296件)	60.0%(36/60件)	51.7%(122/236件)
入院日以前	入院日以前	0.3%(1/296件)	1.7%(1/60件)	—
	入院3日以内	48.3%(143/296件)	55.0%(33/60件)	46.6%(110/236件)
	入院4日以降	4.7%(14/296件)	3.3%(2/60件)	5.1%(12/236件)
連絡なし	46.6%(138/296件)	40.0%(24/60件)	48.3%(114/236件)	

外来受診後の 当日入院	全体		とびうめ登録者	とびうめ非登録者
	病院から連絡があった	57.9%(99/171件)	57.6%(19/33件)	58.0%(80/138件)
入院日以前	入院日以前	2.3%(4/171件)	—	2.9%(4/138件)
	入院3日以内	49.1%(84/171件)	57.6%(19/33件)	47.1%(65/138件)
	入院4日以降	6.4%(11/171件)	—	8.0%(11/138件)
連絡なし	42.1%(72/171件)	42.4%(14/33件)	42.0%(58/138件)	

その他の入院	全体		とびうめ登録者	とびうめ非登録者
	病院から連絡があった	59.6%(78/131件)	59.4%(19/32件)	59.6%(59/99件)
入院日以前	入院日以前	12.2%(16/131件)	9.4%(3/32件)	13.1%(13/99件)
	入院3日以内	42.7%(56/131件)	46.9%(15/32件)	41.4%(41/99件)
	入院4日以降	4.6%(6/131件)	3.1%(1/32件)	5.1%(5/99件)
連絡なし	40.5%(53/131件)	40.6%(13/32件)	40.4%(40/99件)	

参考：ケアマネ事業所を対象に実施した調査(情報提供を行った日 - 病院から連絡があった日)

利用者が入院した
ことの連絡の有無

56.0%
(335/598件)

44.0%
(263/598件)

(病院から連絡がなかった)
(病院以外から連絡があった)

病院から患者入院の連絡を受けた後の病院への情報提供の有無と日数（全入院種別）

全入院種別			全体	とびうめ登録者	とびうめ非登録者
		情報提供を行った		81.5%(273/335件)	86.5%(64/74件)
	病院連絡以前 連絡後3日以内 連絡後4日以降	病院連絡以前	9.6%(32/335件)	9.5%(7/74件)	9.5%(25/261件)
		連絡後3日以内	69.3%(232/335件)	74.3%(55/74件)	67.8%(177/261件)
		連絡後4日以降	2.7%(9/335件)	2.7%(2/74件)	2.7%(7/261件)
	情報提供なし		18.5%(62/335件)	13.5%(10/74件)	19.9%(52/261件)

救急入院			全体	とびうめ登録者	とびうめ非登録者
		情報提供を行った		83.5%(132/158件)	91.7%(33/36件)
	病院連絡以前 連絡後3日以内 連絡後4日以降	病院連絡以前	8.2%(13/158件)	11.1%(4/36件)	7.4%(9/122件)
		連絡後3日以内	74.1%(117/158件)	77.8%(28/36件)	73.0%(89/122件)
		連絡後4日以降	1.3%(2/158件)	2.8%(1/36件)	0.8%(1/122件)
	情報提供なし		16.5%(26/158件)	8.3%(3/36件)	18.9%(23/122件)

外来受診後の 当日入院			全体	とびうめ登録者	とびうめ非登録者
		情報提供を行った		76.8%(76/99件)	78.9%(15/19件)
	病院連絡以前 連絡後3日以内 連絡後4日以降	病院連絡以前	13.1%(13/99件)	5.3%(1/19件)	15.0%(12/80件)
		連絡後3日以内	61.6%(61/99件)	73.7%(14/19件)	58.8%(47/80件)
		連絡後4日以降	2.0%(2/99件)	—	2.5%(2/80件)
	情報提供なし		23.2%(23/99件)	21.0%(4/19件)	23.8%(19/80件)

その他の入院			全体	とびうめ登録者	とびうめ非登録者
		情報提供を行った		83.3%(65/78件)	84.2%(16/19件)
	病院連絡以前 連絡後3日以内 連絡後4日以降	病院連絡以前	9.0%(7/78件)	10.5%(2/19件)	6.8%(4/59件)
		連絡後3日以内	67.9%(53/78件)	68.4%(13/19件)	69.5%(41/59件)
		連絡後4日以降	6.4%(5/78件)	5.3%(1/19件)	6.8%(4/59件)
	情報提供なし		16.7%(13/78件)	15.8%(3/19件)	16.9%(10/59件)

○参考：病院窓口ガイドについて、使用しての感想や追加・変更を希望する点①

<記載内容、記載方法について>

- ・ 地域連携室の電話番号とFAX番号が記載されているので助かります。
- ・ 各病院の連絡窓口がわかりやすく、連絡しやすく助かります。
- ・ 入院時に連絡を取る際に「病院窓口ガイド」を活用している。連絡先がすぐにわかるので助かっている。

<病院との連携について（良くなった点）>

- ・ 病院と連携する際の窓口や連絡方法を知るツールがあるのでスムーズに対応できる。
- ・ 情報提供の際に病院側から「それは何ですか？」と聞かれることがなくなった。
- ・ 窓口ガイドが作成されてからスムーズに連携できるようになり、大変有効に活用できている。
- ・ 当初はたらい回されたことがあったが、徐々に浸透している印象が強い。とてもありがたいと感じる。
- ・ 入院時、すぐに連絡をしてもSWも理解できないことも多く、家族に仕事等あれば（土日を含んだり）3日以内の連絡が困難なこともあります。今月はたまたま入院が無かったものの、大きな病院への連絡は難しい時があります。そういいながらも、2年前と比べると医療からの連絡は全体に増えたと思います。現在、入院中の方も状況の共有をしながら支援について話し合っています。

<病院との連携について（課題）>

- ・ 入院時情報提供書をFAXしたいのだが、まず病院の電話交換受付につながり、そこから何度も転送される病院が多々ある。
- ・ 居宅が医療機関へ情報提供しても、全く連絡なく、退院・転院している場合が多く、退院時にサマリーを利用者経由でいただいても、居宅として必要と思われる情報がないため、うまく連携するツールとして活用できていないと感じている。
- ・ 入院後、病院から連絡が無いことの方が多く、当社からご連絡させていただいています。近況や介護サービス状況等報告し退院が決まる前にカンファレンスを希望しています。
- ・ 家族から入院の知らせを受け、病院に連絡したが、まだ担当（CW）が決まっていないと情報提供できない事があった。
- ・ 病院窓口ガイドにのっとして、入院時の情報提供のための連絡をするも、先方の病院（医療連携室）の担当者が病院窓口ガイドの存在を知らないのか、別の窓口を案内されることが多々ある。

○参考：病院窓口ガイドについて、使用しての感想や追加・変更を希望する点②

<要望>

- ・ 病院窓口ガイドは参考しやすく、病院との連携のための下準備が容易になった。毎年度発行して欲しい。
- ・ 北九州市内の入院施設病院全てを載せて欲しい。
- ・ あいうえお順に載せて欲しい。探すのが手間。

<その他>

- ・ 便利に活用させて頂いています。
- ・ とても参考になる。
- ・ 毎回確認し、役立っています。
- ・ 門司区や小倉北区から新規の依頼のある病院に関しては日頃から連携を取っている為、頻繁に病院窓口ガイドを利用する事はあまりないが、日頃連携していない病院に関しては病院窓口ガイドを利用している。
- ・ やり取りをしたことのない病院の場合は参考になります。
- ・ 新規担当した方には、「とびうめ@きたきゅう」を積極的に勧めております。
- ・ 門司区内及び某病院などは以前から入院時情報提供や、入院中の病院訪問（コロナ以前）は細かめに行っていましたので、変わりなく続けています。とびうめネットも利用しましたが、結局、日常の様子などを書面でお知らせする必要があり、ネットは情報不足になりがちです。

○参考：その他自由記載①

<病院との連携について（課題）>

- ・ 入院時に連携をしたにもかかわらず、こちらから退院時は連絡して欲しいと伝えていても連絡なく退院をしていることが何度かみられた。
- ・ この期間（調査期間）ではなく、8月頃でしたが、担当ケアマネが変わっていることを知らずに、病院より連絡が入りました。そのことを病院の窓口と言うも、「こっちに言われても知りません」とのことでした。とても上から目線で嫌々話されていたことが印象に残りました。
- ・ 病院により対応の温度差がある。顔の見える連携を図ることが出来ている病院とは密接に情報交換できるので、こちら側が病院にどんどんアプローチしていくことで改善可能と考えているが、本質的に連携が難しいと感じる病院があるのも確かである。連携室が機能していない病院とは連携が図れないと感じる。
- ・ 入院時の担当看護師がとびうめの件について認識が無い。入院時情報提供について知らない。退院前カンファについても知らなかった。
- ・ 医療・介護連携ルールのツール（運用・活用）自体に問題はなく、連絡もスムーズにいつているが、病院によっては把握した情報が連携室と病棟で共有できていない。また、病院によっては単に「ケアマネジャーに退院の予定連絡をした。」＝連携したということになっている。※連絡と連携の違いが理解できていないと感じることがあった。（個人のスキルの問題だろうが…）
- ・ 入院の連絡を受けて、病院へ連絡したが、担当MSWが決まっていないので情報が必要かわからないと言われる。担当のMSWが決まったら連絡してもらいたいと依頼したが、まったく連絡が無く、退院も住宅型有料老人ホームからの連絡だった。こちらから連絡しても対応がない場合はそのままにしているのか？
- ・ 調査期間に入院はありませんでしたが、入院の際、3日以内に病院から連絡を頂けることは少ないです。ほとんど、当日か次の日に本人や家族からの連絡で知ることが多いです。
- ・ 入院当日の連携窓口が明確でない。入院時情報提供書を交付していても、目を通していないのか、介護度やサービスの回数などの問い合わせのTELが入ることが多くある。
- ・ 入院時に情報提供しても退院の連絡がない場合がある。

○参考：その他自由記載②

<病院との連携について（良かった点）>

- ・ お蔭様で、病院の方から連絡を密にいただけるようになりました。コロナ感染予防もあり、入院中に面会ができなかった分、色々と情報を頂いております。当初は、はりきって申込手続きを促しておりましたが、コロナの件もあり、時間経過と共に誰が手続きをしたか、はっきりしない事もあります。来年は改めて促進して行きたいと思っております。
- ・ 以前よりも病院から入退院の連絡をしていただけるようになったため、助かっている。

<「とびうめ@きたきゅう」について>

- ・ ご利用者へ提案するとそれはいいねと喜ばれます。
- ・ 介護認定申請と同じにとびうめが登録できるようになって、利用者、ケアマネの負担が軽減できた。
- ・ 「とびうめ@きたきゅう」の説明をするが関心がなく、あまり周知されていないことから登録に至っていない。システムの効果などわかりやすく提示できたら、と思いますが、そんなことをしなくてもかかりつけ医がいるから、と言われることが多いです。自分には必要ないとも答えられます。

<「医療・介護連携ルール」について>

- ・ 年未年始にかけて、入退院が多く、思うような情報提供ができていません。
- ・ 日祭日などを挟むと連携が遅れてしまい、ご迷惑をお掛けします。
- ・ 入院時には速やかに情報提供が行えるよう努めています。
- ・ 病名や入院の経緯などを知ることが出来るので、情報提供した時に収集できて某病院はととてもありがたいです。
- ・ 入院時情報提供書を活用しています。
- ・ とびうめネットを見て病院からの連絡は1例もなかった。

2. 「とびうめ@きたきゅう」活用状況調査（対象：病院）

1. 調査目的

- 「とびうめ@きたきゅう」の令和元年11月からの八幡地区でのモデル実施、令和2年6月からの全市展開、そして、「医療・介護連携ルール」の運用開始から一定期間が経過したことを受け、「とびうめ@きたきゅう」に参加している病院を対象に、**「とびうめ@きたきゅう」の活用状況や「医療・介護連携ルール」の運用状況等を把握するための調査**を、昨年度、初めて実施。
- 今後も、活用状況を継続的に把握していくため、昨年度に引き続き、調査を実施した。

2. 調査概要

- 「とびうめ@きたきゅう」参加病院に電子メールにて調査票を送付

3. 回答率

- 48.7%（19/39病院）
《昨年度 56.8%（21/37病院）》
-
- | | |
|---------|------|
| うち、 | |
| ・救急病院 | 13病院 |
| ・その他の病院 | 6病院 |

○結果要点（その1）

【導入部署】

「地域連携室」が最も多く **68.4%**（13/19病院）の病院で導入していた。《昨年度もトップ》

【院内で検索・閲覧している職種】

「事務スタッフ」が最も多く **72.4%**（21/29部署）、
次いで「看護師」の **48.3%**（14/29部署）。《昨年度も同順位》

【各部署での活用状況】

- | | | |
|-------------------------|--------------|------------|
| ・ 緊急搬送時の治療の参考情報として活用 | 37.9% | 《昨年度 20.6% |
| ・ 閲覧情報を院内の多職種で共有するために活用 | 37.9% | 《昨年度 20.6% |
| ・ 院外の関係者に連絡する際に活用 | 34.5% | 《昨年度 23.5% |
| ・ 活用していない | 37.9% | 《昨年度 55.9% |

※活用していない理由

- | | | |
|---|--------------|------------|
| ・ 閲覧情報を既に保有しているため、見る必要がない | 27.3% | 《昨年度 36.8% |
| ・ <u>院内での周知・理解が十分でないため、</u>
<u>日常業務で閲覧できない</u> | 27.3% | 《昨年度 31.6% |
| ・ <u>登録者数が少なく、検索しても登録していない方が多い</u> | 27.3% | 《昨年度 21.1% |

【登録申出書を勧める部署・設置している部署】

「地域連携室」が最も多く **78.9%**（15/19部署）、
次いで「入院支援センター」・「外来」・「受付」が同率で **31.6%**（6/19部署）。

○結果要点（その2）

【入院となった患者が介護サービスを利用している場合、CMに連絡しているか】

- ①連絡している 61.1%（11/18病院）
- ②連絡していない 5.6%（1/18病院）
- ③連絡する場合としない場合の両方ある 33.3%（6/18病院）

※②の理由：現在の状況から退院後のことまで事細やかな要求をするCMが多く、対応に苦慮する。

※③の理由：家族や本人を通じて伝えてもらっているため。

家族がいる方は家族から伝えてもらい、独居の方は病棟から伝えている。

すでに情報があれば連絡しないこともある。

CMからの連絡で受診・入院となった場合は連絡しない。

【救急隊から「とびうめ@きたきゅう」の登録者であることを伝えられたら確認するか】

- ①確認する 58.3%（7/12病院） *調査対象：救急病院
- ②確認しない 8.3%（1/12病院）
- ③わからない 41.7%（5/12病院）

※①の理由：患者情報を得るため。診断・治療の参考とするため。連絡先確認のため。

※②の理由：当院かかりつけであれば電子カルテで情報が得られる。（かかりつけでなければ確認）

※③の理由：事前情報が全くなければ確認するかも。医師が必要と判断した場合に確認する。

救急部へ設置していない。

○結果要点（その3）

アクセスログからのヒット率（令和3年）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	上期 平均	
ヒット率	6.8%	8.5%	7.0%	4.8%	8.4%	8.5%	7.3%	
患者閲覧数 ／検索数	186 /2753	191 /2242	182 /2597	90 /1886	168 /2011	173 /2029	165 /2253	
検索病院数	16病院	13病院	14病院	6病院	10病院	13病院	12病院	
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	下期 平均	年平均
ヒット率	7.7%	8.2%	9.8%	9.4%	10.2%	9.3%	9.1%	8.2%
患者閲覧数 ／検索数	167 /2171	191 /2328	228 /2338	203 /2166	253 /2478	242 /2594	214 /2345.8	189.5 /2299.4
検索病院数	8病院	8病院	10病院	8病院	10病院	11病院	9.2病院	10.6病院

➤上期に比べ、下期は「とびうめ@きたきゅう」のヒット率が上昇（7.3%→9.1%）した反面、検索をした病院数は減少（12病院→9.2病院）。

○まとめ（病院調査）

- とびうめ@きたきゅうを**使っていない部署**は37.9%（11/29部署）と、前回調査の55.9%（19/34部署）よりも**改善した**。使っていない理由は、
 - ・ **院内での周知・理解が十分でなく**、日常業務で閲覧できない（27.3%）
 - ・ 登録者が少なく、**検索しても登録していない**方が多い（27.3%）であった。
- 令和3年実績のアクセスログをみると、**ヒット率**（患者閲覧数/検索数）は上期が7.3%、下期が9.1%で**上昇傾向**となっている。一方で、**検索病院数**は、上期が12病院、下期が9.2病院で**減少傾向**となっている。
- 介護サービス利用者が入院した際の**ケアマネ事業所への連絡の有無**については、**6割の病院が「連絡する」とした一方、3割の病院が『家族を通じて連絡可能な場合』や『すでに患者情報を保有している場合』は「連絡しない」としている。**
- とびうめ@きたきゅう登録者であることを**救急隊から伝えられた場合**、**6割の病院がとびうめ@きたきゅうを「確認する」とし、4割は『事前情報がない場合』や『医師が必要と判断した場合』は「確認する」と回答した。**
- 病院内でとびうめ@きたきゅうを定着させるためには、**「登録者数の増加」と「病院内での周知・理解」にも繋がる新たな運用（救急隊からの伝達など）を進めていく必要がある。**

参考：病院内での設置・利用状況

一つの部署	二つの部署	三つの部署
63.2% (12/19病院)	21.1% (4/19病院)	15.8% (3/19病院)

参考：病院内で「とびうめ@きたきゅう」を導入している部署

地域連携室	入院支援部署	救急外来	病棟	その他
68.4% (13/19病院)	5.3% (1/19病院)	42.1% (8/19病院)	0.0% (0/19病院)	36.8% (7/19病院)

参考：病院内で「とびうめ@きたきゅう」を検索・閲覧している職種

医師	看護師	ソーシャル ワーカー	事務スタッフ	薬剤師	その他
41.4% (12/29部署)	48.3% (14/29部署)	41.4% (12/29部署)	72.4% (21/29部署)	10.3% (3/29部署)	0.0% (0/29部署)

参考：病院内での「とびうめ@きたきゅう」の活用状況①

1 : 緊急搬送時 の治療の 参考情報 として活用	2 : 閲覧情報を 院内の多職種 (Dr、Ns、SW等) で共有	3 : 院外の関係者 (ケアマネ、家族等) に連絡する際に 活用	4 : その他 ※内容：次ページ参照	5 : 使っていない
37.9% (11/29部署)	37.9% (11/29部署)	34.5% (10/29部署)	6.9% (2/29部署)	37.9% (11/29部署)

<「5：使っていない」理由>

1 : 閲覧できる パソコンが わからない	2 : パソコンの 起動から情報 を見るまでに 時間がかかる	3 : 閲覧情報を 既に保有して いるため、 見る必要が ない	4 : 登録者数が 少なく、 検索しても 登録していな い方が多い	5 : 院内での周知 ・理解が十分 でないため、 日常業務で 閲覧できない	6 : その他 ※内容：次ページ 参照
9.1% (1/11部署)	18.2% (2/11部署)	27.3% (3/11部署)	27.3% (3/11部署)	27.3% (3/11部署)	45.5% (5/11部署)

参考：病院内での「とびうめ@きたきゅう」の活用状況②

「とびうめ@きたきゅう」の活用方法の「その他回答」

- ・ 家族情報確認したい、連絡したい。〈設置部署：救急外来・外来〉（救急病院）
- ・ 活用が少ない。〈設置部署：救急外来〉（救急病院）

「とびうめ@きたきゅう」を使っていない理由の「その他回答」

- ・ 本人・家族から情報が聞き取れる。〈設置部署：地域連携室〉（救急病院）
- ・ 必要な状況がなかった。（その他の病院）
- ・ 移転したことでシステムが変わって環境が整っていないため。（その他の病院）
- ・ ケアマネ対応に苦慮するため。〈設置部署：地域連携室〉（救急病院）

参考：院内活用の体制を整えるために困っている事

- 登録は推奨しているが、活用したことが一度もない。（お薬手帳や介護保険証の確認、本人やキーパーソンからの聞き取りで、かかりつけ医やケアマネは判明するため。）（救急病院）
- まだまだ救急外来でのタイムリーな利用につなげられていない。 ネット環境が悪いのか、スピーディにつながらない。連携室がない夜間や休日、途中でやめている形跡はあるが、困った報告がない。
(救急病院)
- 慢性期医療機関では、事前に十分な情報が来ていることが多いので、部署により利用頻度が落ちる。
(その他の病院)
- 情報の更新がされていない場合もあり、担当者や介護事業所が変わっている場合もある。（救急病院）
- 救急外来での運用を決めているが、閲覧するまでに時間がかかる、情報がリアルタイムではないため、直接、情報を依頼することが多いことから、活用が少ない。（救急病院）

参考：『登録申出書を患者に勧める部署』や『登録申出書を設置している部署』

地域連携室	病棟	入院支援センター (入院支援部署)	外来	受付	その他
78.9% (15/19病院)	15.8% (3/19病院)	31.6% (6/19病院)	31.6% (6/19病院)	31.6% (6/19病院)	10.5% (2/19病院)

<「その他」の内訳>

・救急外来 ・患者相談室



【上記についての補足説明等】

- ・ 患者が入院する際に説明し、登録希望者に申出書を渡している。(救急病院)
- ・ 入退院センターで入院患者さんが定期入院手続きの際、資料をお渡ししている。総合受付、入退院センターに登録申出書を設置。(救急病院)
- ・ 外来窓口にて入院手続きの際に声掛けを行っている。また、救急外来でも登録を勧めている。
(救急病院)
- ・ 医師が必要と判断した時及び本人からの希望がある時、説明し、登録を行う。(その他の病院)

参考:入院となった患者が介護サービスを利用している場合、CMに連絡しているか

連絡している	連絡していない	連絡する場合としない場合の両方	<連絡する部署>
61.1% (11/18病院)	5.6% (1/18病院)	33.3% (6/18病院)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域連携部署 (12部署) ・ 病棟 (3部署) ・ 患者支援部署 (2部署)

【「連絡していない」理由】

- ・ 以前、とびうめ@きたきゅうを日々検索し、該当者がいればCMに連絡を入れていた。あくまでも「入院のお知らせ目的」での連絡であったが、現在の状況から退院後のことまで事細やかな要求をするCMが多く、対応に苦慮するため、当院での使用を控えることとした。また、HITする打率が低すぎる。手間は大きいがメリットが少ない。(救急病院)

【「連絡する場合としない場合の両方」ある理由】

- ・ **本人、家族を通じて**伝えてもらっているため。(救急病院)
- ・ **家族が伝えてもらっている**場合があるため。「とびうめ@きたきゅう」で把握した場合は**連絡**している。(救急病院)
- ・ 「とびうめ@きたきゅう」で把握できた場合は連絡しており、**すでに知っており、情報を頂いていれば連絡しないこともある**。(救急病院)
- ・ **家族がいる方は家族から**伝えてもらい、**独居の方は病棟から**伝えている。(その他の病院)
- ・ 基本的にはCMに連絡している。**家族よりCMへ報告出来ている場合や、CMからの連絡で受診・入院となった場合、連絡していません**。(その他の病院)

参考:救急搬送の患者を受け入れる際に、救急隊から「とびうめ@きたきゅう」の登録者であることを伝えられた場合、「とびうめ@きたきゅう」を確認するか

確認する	確認しない	わからない
58.3% (7/12病院)	8.3% (1/12病院)	41.7% (5/12病院)

※調査対象：救急病院

【「確認する」理由】

- ・ 情報収集のため。
- ・ 診断・治療の参考のため、連携先確認のため。
- ・ 当院かかりつけでない場合、情報が得られると思われる。
- ・ 患者情報を得るため。
- ・ 患者情報確認のため。
- ・ 救急隊からの連絡を受けた医師が事務スタッフに確認の指示を出すことで確認を行う。

【「確認しない」理由】

- ・ 当院かかりつけであれば電子カルテで情報が得られる。

【「わからない」理由】

- ・ 事前情報が全くなければ確認するかも。
- ・ 医師が必要と判断した場合に確認します。
- ・ 救急部へ設置していない。

参考:「とびうめ@きたきゅう」や「医療・介護連携ルール」を活用したことにより、『役に立った点』や『良かった事例』など

- 1件あり。担当ケアマネがわかった。(救急病院)
- 他院で処方されている薬剤、あるいは病名をすぐに知ることができた。(その他の病院)
- 担当CMへ連絡し、入院前の情報を速やかにいただき、退院支援の検討に大変役立った。(救急病院)
- 情報の整合性確認や過去の治療歴など、本人や家族から情報収集しにくい時に活用できた。
(その他の病院)
- 緊急搬送された際に、かかりつけ担当やCMがわかる為、患者情報を迅速に把握する事ができた。
(救急病院)
- 担当CMを知ることができ、患者情報を早期に提供していただけた。(救急病院)
- 救急搬送時、付添なし、緊急連絡先を知ることができ、家族へ来院依頼することができた。
(救急病院)
- 担当CMへの連絡が早くなり、情報共有ができるようになった。CMの退院前カンファレンスへの参加が多くなった。(救急病院)

参考：自由意見欄

- 設置台数が1台である事、救急車受け入れが少なく入院時や入院後に情報を得ることが可能なため、あまり活用が出来ていません。（その他の病院）
- 当院でとびうめ@きたきゅうに登録説明、申請した後に、かかりつけ医より、かかりつけ医以外で登録しないよう苦情がきた。とびうめ@きたきゅうには消極的なご意見もあり、かかりつけ医によって説明できない患者様もいる為、かかりつけ医の意識も変わるといいです。（救急病院）

北九州医療・介護連携プロジェクトとして 今後、力を入れていく点

令和3年度に実施した {
・「医療・介護連携ルール」活用状況調査（結果）
・「とびうめ@きたきゅう」活用状況調査（結果）
を踏まえ、今後、以下の点に一層力を入れていく。

①入院当初からの連携を促していくため、医療・介護連携ルールの徹底をさらに周知

- 家族等を経由した入院連絡も有効的ではあるものの、病院・ケアマネ事業所同士の入院初期段階から連携していくことが重要
- 入院3日以内の連絡（病院→ケアマネ事業所）や、連絡後3日以内の情報提供（ケアマネ事業所→病院）をさらに浸透・徹底させる

②とびうめ@きたきゅうへの登録増と新たな運用による病院内での周知・理解の推進

- 横断的・断続的な普及啓発活動や情報発信により、登録者数の増加を推進（構成団体内のネットワーク等も可能な範囲で活用）
- 新たな運用（救急搬送時の病院へのとびうめ@きたきゅう登録者の伝達）を進めることにより、各病院での理解・活用の促進に繋げる

北九州医療・介護連携プロジェクト

「とびうめ@きたきゅう」参加診療所を対象とした
アンケート調査（結果）

1. 調査目的

- 「とびうめ@きたきゅう」にまだ参加していない診療所が参加を検討する際の参考となるよう、「とびうめ@きたきゅう」参加診療所を対象に、「とびうめ@きたきゅう」を活用して『役に立った点』や『良かった事例』について、アンケート調査を実施

2. 調査概要

- 「とびうめ@きたきゅう」参加診療所に郵送にてアンケート調査票を送付
※送付時期：令和4年1月上旬

3. 回答率

- 26.3% （30/114診療所）

○結果概要

『役に立った点』や『良かった事例』については以下の回答があった。

- 他の医療機関での処方薬の内容や過去の診療情報がわかり、役に立った。
- 連絡先（ケアマネ事業所、緊急連絡先）がわかりやすくなった。
- 患者に説明して勧めると、多くの方が理解・納得してご登録いただける。
この点が、患者と医師との関係を良くしていると感じられる。
- 患者や家族の安心感はあると思う。
- 患者にとって、他の医療機関への入院時に役に立った例がある。

一方で、『活用事例がない』や『使用していない』といった回答もあった。

その理由としては、自由意見欄への記載も含め、以下の回答があった。

- 登録者が少ない。
- コロナ禍で患者が少なく、あまり活用ができない。
- 使い方・閲覧方法がわからない。
- 活用方法がわからない。
- 当院で登録の場合でも、照会時に生年月日を入力しなければならず、面倒。
- 登録記載の負担が大きく、多くの患者を登録できない。

<他の医療機関での診療情報等について>

- ・ 他院での処方薬がわかり、当院で処方する際に役立った。
- ・ 他院での処方薬がわかり、役立った。
- ・ 過去の診療情報の照会や処方内容について理解が深まり、便利です。

<連絡先（ケアマネ事業所、緊急連絡先など）について>

- ・ 連絡先がわかりやすくなりました。

<その他、患者さんの安心感など>

- ・ 具体的なアドヴァンテージは現在までは特に感じません。ただ、説明しておすすめすると大部分の方が理解、納得されて登録されます。この点が患者・医師関係をよくしていると感じております。現在は高齢者所帯や慢性疾患の方にすすめています。
- ・ 現段階では役立ったことを実感していませんが、患者さん、ご家族の安心感はあると思います。
- ・ 当院より140人以上登録している。当院として役に立った事例はあまり思い当たらないが、患者にとって他院入院時に役に立った例はある。

<活用事例なし>

- ・ 現時点で利用して活用する事例がありませんが、今後もよろしくお願いします。
- ・ 使用していません。利用者が少ないと思います。
- ・ 登録はしているが、患者の絶対数が少なく、また患者も（コロナ禍で）少ないためあまり活用ができない。

○参考：自由意見欄

- ・ 生保の方の他院のデータがあると大変良いと思います。
- ・ M3やメドレー等のメジャーな電子カルテとの連携を進めていただけると幸いです。
- ・ もう少し、データが新しくなったらよい。退院サマリー等も簡単にUP（代行でも可）できると良い。主治医意見書や調査票をUPして欲しい。
- ・ 認知度を高め、多くの患者さんが登録すること。電子カルテ等、他のものと連携する事。実臨床では、ほとんど活用されません。
- ・ 有料老人ホームなどに入居中の方にも利用してもらいたいが、今のところ協力してもらえない。担当CMからもすすめて欲しい。
- ・ 患者様や病院側での使い方がもっと簡単にわかると便利。
- ・ 閲覧方法がよくわからないので、閲覧方法を試した簡単マニュアル的な冊子を参加診療所（希望者のみ？）へ配って欲しい。
- ・ 当院で登録、入力した症例でも照会の時に生年月日を入力しなければならないのは面倒くさい。ひょっとしたらかかりつけ医の記載はめだたないのではないか？
- ・ 介護系施設などで登録した患者に関して当方でも登録する場合、同意書は要すると思われそうですが…。未だに消防救急の中には、「とびうめに入っていていなくてもそんなの関係ない」というスタンスをとる人間がいることは現実です。
- ・ 登録記載の負担が大きく、多くの患者を登録できない。
- ・ システムを改善（改訂）すると、徐々に会員がついて行けなくなる。このアンケートは北九州市医師会を窓口とすべきです。
- ・ 自院での活用の方法がよくわかりません。

議題4. 消防局における「とびうめ@きたきゅう」へのアクセスについて

1. 概要

- 救急出動の際、傷病者情報が聴取できない場合や不明瞭な場合に、救急隊員から依頼を受けた指令センターが、「とびうめ@きたきゅう」の検索・情報提供を実施。
- 当該傷病者が「とびうめ@きたきゅう」登録者であることが判明した場合は、搬送時に医療機関に登録者であることを伝達。

2. 効果

- 傷病者情報が聴取できない場合などに際し、医療・介護情報や緊急連絡先を迅速に把握することが可能となる。
- また、搬送先の医療機関においてもスムーズな情報収集が可能となることで、適切で迅速な医療サービスの提供につながる。

3. 方法

- 消防局指令センター職員が、現場の救急隊員からの依頼を受け、タブレット端末を用いて情報検索を行う。

4. 運用開始予定

- 今夏までに導入・運用開始

議題 5. 病院窓口ガイドの改訂について

1. 概要

- 前回発行（令和2年2月）から1年以上経過したことを踏まえ、掲載されている全80病院に掲載内容等の確認を実施。

2. 実施方法

- 依頼文とともに該当ページを郵送し、見え消し修正で回答。
※令和4年1月上旬発送（1月末：回答〆切）

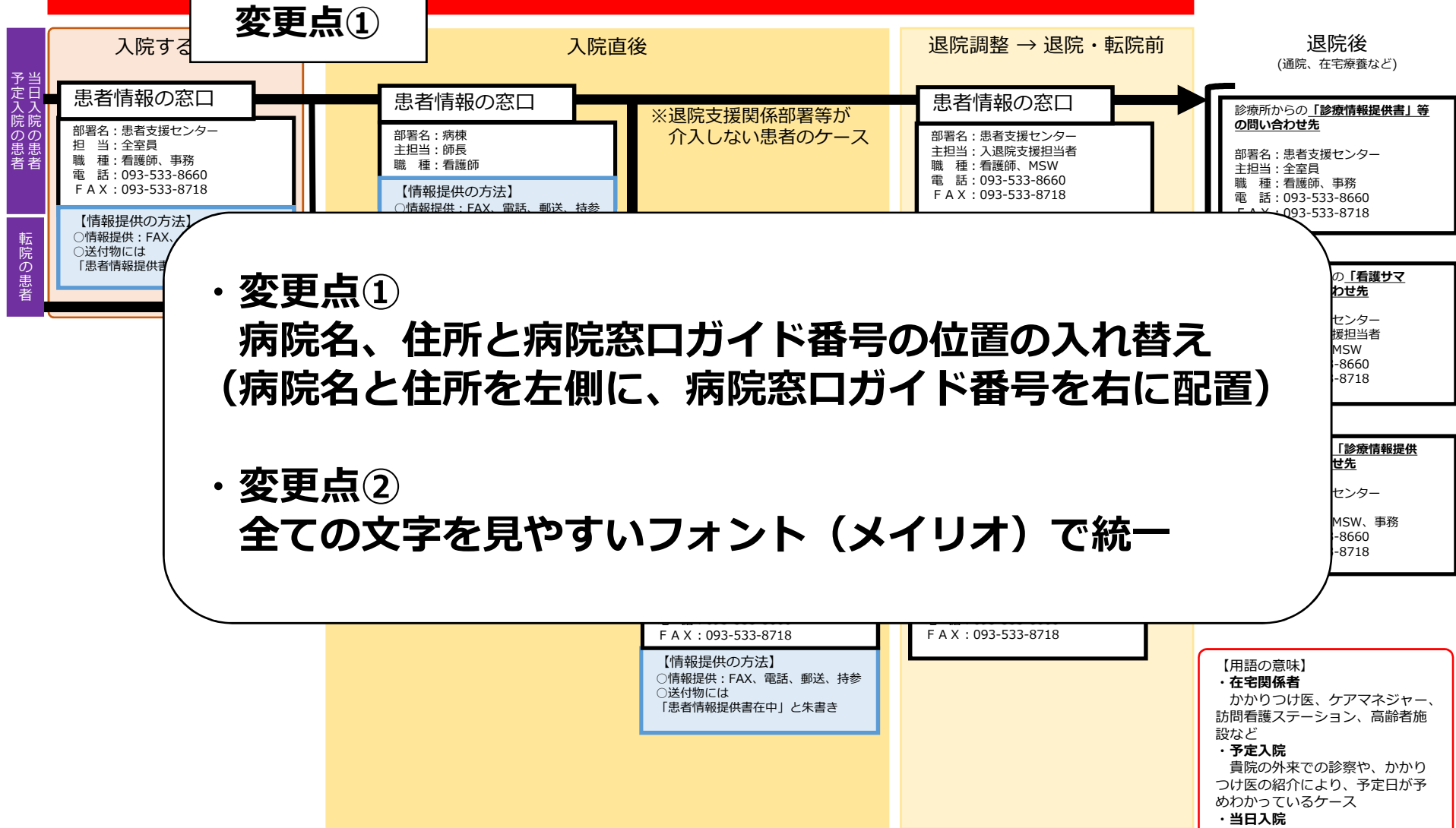
3. 改訂時期

- **令和4年3月**

4. その他

- 今回の改訂にあわせて、病院名の配置や文字フォント等を調整し、見やすいレイアウトに変更。（次ページ参照）
- 改訂した「病院窓口ガイド」は、**市内全てのケアマネ事業所及び掲載病院に配布**するとともに、市ホームページにも引き続き掲載（随時更新）。

下の図を見て患者情報の窓口がわからない場合は、患者支援センター（093-533-8660）まで



- ・ **変更点①**
病院名、住所と病院窓口ガイド番号の位置の入れ替え
(病院名と住所を左側に、病院窓口ガイド番号を右に配置)
- ・ **変更点②**
全ての文字を見やすいフォント（メイリオ）で統一

※サンプル